



「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会

〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知保険医会館内
TEL ; (052) 832-1349
FAX ; (052) 834-3584

10月8日のイレバデーに



「歯のなんでも電話相談」を開催

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、イレバデーの10月8日（水）午後2時から5時まで、「歯のなんでも電話相談」を行いました。相談には、保険医協会と民医連の歯科医師の計7人が対応し、14件の相談が寄せられました。

電話相談は、愛知民報や生協機関紙などで案内されたほか、インターネットによるPRもあり、富山県や宮崎県など遠方からも相談が寄せられました。相談者の年齢は20歳代から80歳代までと幅広く、治療中であるが主治医に聞きにくい相

談や、セカンドオピニオンとしての意見を求める相談が多数でした。

相談内容は、「奥歯の根管治療で痛みが出ていて、治まるか心配」「仕事中の事故で前歯三本が欠損となったが、ブリッジ、義歯、インプラントのうちどれがよいか」「歯科治療をきっかけにアレルギー症状が出た。皮膚科も受診したが治らない」「三十年前に入れたブリッジがあわなくなってきた。ブリッジと義歯のどちらがよいか」といった内容の他、矯正治療に関する相談もありました。



金山総合駅で街頭宣伝 窓口負担の軽減と保険適用範囲の拡大で



「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会では、10月19日（日）午前10時半から名古屋市中区の金山総合駅南口で、「保険で良い歯科医療」の実現を求める街頭宣伝を行いました。

当日は秋晴れの晴天の下、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士や歯科医療従事者21人が参加。大蔵愛知連絡会会長はじめ、行動参加者が交代でマイクを握り、「保険で良い歯科医療」の実現を求める請願署名の協力の御礼、今政府がすすめる患者負担増や混合診療の拡大の問題点を紹介しながら、窓口負担の軽減と公的保険給付の拡大の必要性和署名への協力などを訴えました。

また、歯科医師による歯の健康相談や、簡易測定器を使用した口臭チェック、ガムによる咀嚼力チェック、歯周病チェックのコーナーを設け、歯の健康の大切さも呼びかけました。

約1時間、チラシや署名入りポケットティッシュ、

風船などを配布しながら、保険医協会が取り組んでいる「新たな患者負担増をやめ、窓口負担軽減の大幅軽減を求める請願署名」を53筆集めました。



患者・国民が受診しやすい歯科医療を実現しよう！ 愛知連絡会が第8回定期総会を開催



「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、5月25日（日）午前10時から第8回定期総会を開催しました。総会には連絡会参加団体の構成員・市民など79人が参加しました。

総会議事では、大藪憲治愛知連絡会会長の挨拶の後、江原雅博副会長から2013年度活動報告案と2014年度活動方針案について提案がされました。活動方針では「昨年は愛知連絡会の請願署名の取り組みが全国の運動を牽引しました。今年度は、運動をさらに前進でき

るよう組織強化と学習に力を入れましょう」と報告しました。

その後、決算・予算案、役員・世話人体制案が一括で採択がされました。

続いて行われた記念講演では、多治見口腔ケアグループはねっと代表で歯科衛生士の栗木みゆき氏が「健康なお口をいつまでも～音楽を使って楽しく」のテーマで講演を行いました。

栗木氏は、高齢者や障害者の施設等への口腔ボランティア活動を行っており、豊富な経験に基づいて、口腔ケアや口から食べることの大切さを強調。65歳以上では死亡原因の一位である

- ### 2014年度活動方針
- ① 県内各自治体で「保険でより良い歯科医療を求める意見書」採択運動に取り組む。
 - ② 「より良く食べるはより良く生きる」出前学習会を開催する。特に、連絡会参加団体と協力して、乳幼児の親から介護が必要となる高齢者・障がい者などへの口腔ケアなど、テーマや対象を広げて取り組む。
 - ③ イレバデー（10/8）からイイハデー（11/8）までのアピール月間に、「歯の何でも電話相談」を行うとともに、歯の健康や歯科医療改善の必要性を訴える取り組みを行う。
 - ④ 市民向け学習啓蒙企画として市民公開講座を開催する。
 - ⑤ 患者・住民の要望を汲み上げ、実現のために関係各所に働きかける。
 - ⑥ 歯科技工士や歯科衛生士との協力関係がつけられるような取り組みを行う。
 - ⑦ ニュースを定期的に発行する。
 - ⑧ 事務局会議・世話人会の定期開催と組織の強化をめざす。
 - ⑨ 「保険で良い歯科医療を」全国連絡会に参加し、全国の運動と協力・共同した活動に取り組む。

誤嚥性肺炎を防ぐため、口腔機能の低下を発見するチェック表やマッサージ・訓練などを紹介しました。そして一緒に活動している音楽療法士の加藤恵子氏とともに、音楽を使ったお口の体操を、会場の参加者を巻き込んで行うなど、口腔ケアと口腔機能アップを楽しく行うことへの努力が強く感じられる講演となりました。



あいち高齢者大会で「歯」の分科会



10月17日（金）名古屋市公会堂において「第16回あいち高齢者大会」が開催され、「歯っぴいスマイルー口から見える健康長寿の秘

訣」の分科会で、「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会会長の大藪憲治先生が講師を担当し、21人が参加しました。

大藪先生は、「歯科は命には関係ないとか、アメニティと軽視され、診療報酬も低く抑えられ、四半世紀前の大学で学んだ技術も保険導入になっていないが、歯科は人間らしく生

きていくために大切な医療」と述べ、話をすすめました。

講演では「食べる時には触覚・視覚・味覚・臭覚・聴覚を使い、脳が活性化しますが、加えて“よく噛む”という行為が脳を活性化することが研究でわかってきています」と、パワーポイントやDVDも使用し説明しました。また唾液の効果や、飲み込む時の舌の動き



なども解説。日常的にできる「あいうべ体操」や「ペロまわし体操」を紹介しました。そして、よく噛んで食べることで、お口の健康を守ることの大切さを強調し、講演を終えました。

参加者は「いいお話を聞いた」と満足そうでした。